

(写真・文 吉岡義雄)

イラガ (学名: *Monema flavescens*)

【チョウ目イラガ科】



▲ イラガの繭まゆ

冬に散歩していると、木の枝や幹に付けられた卵のようなものを見かけることがあります。白地に茶色い絵の具でつけられたような模様はなかなかお洒落です。その正体はイラガと呼ばれるガの繭まゆです。

イラガは、幼虫の方が人との関わりが多く、印象深い虫かもしれません。様々な樹木の葉を食べ、果樹や庭木にもよく発生します。また、毒のあるトゲを持ち、触れると激しく痛みます。夏に羽化した成虫は口（口器）が無く、まさに飲まず食わずで交尾と産卵を行います。卵は夏のうちに孵化し、幼虫は晩秋に繭まゆを作ります。繭の中の幼虫はすぐに蛹になるのではなく、幼虫のままトゲを失い、体表面が柔らかくなった状態で越冬します。この状態を前蛹ぜんようといいます。

イラガの前蛹は非常に寒さに強いことで知られており、 -20°C 以下という極めて低い温度にも耐えます。これは前蛹の体内で作られるグリセリンの働きによって、氷点下でも凍結を防ぐことで、体の組織が破壊されるのを防いでいます。このようにイラガは体内で生産される化学物質で厳しい冬を乗り切ります。寒冷な地域で生き延び、子孫を残してきた昆虫の進化には驚かされます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展アーカイブ・プラス「只見の自然を食べる！」

会期：2023年12月2日(土)～2024年4月21日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー